

令和3年度「狛江市学習状況調査」の結果 及び 経年変化の分析（中学校）

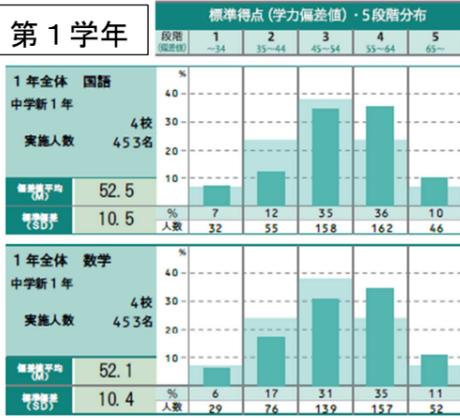
調査実施日 令和3年4月12日（月） 実施

調査対象、実施教科等

- 調査の目的
- ◇ 生徒の学習状況を把握し、生徒の学力を把握・分析する。
 - ◇ 分析結果を基に日々の授業改善を行い、生徒の学力向上に資する。

調査対象	実施教科	調査範囲	調査実施時間	受検者数	
中学校	第1学年	国語、数学、英語	前学年までに履修した内容	45分間、配布と回収を含め1単位時間（50分）を充てる。	453人
	第2学年	国語、数学、英語			437人
	第3学年	国語、数学、英語			398人

「狛江市学習状況調査」(標準得点・5段階分布と大領域別集計) ※全国比…全国の正答率を100とした場合の狛江市の割合



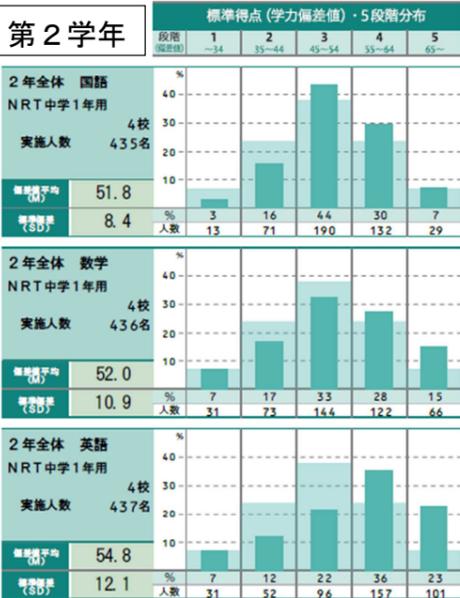
大領域別集計

部	内容	正答率	全国正答率	全国正答率との比較	3 or 5 段階分布出現率
1	話すこと・聞くこと	64.2	61.4	105	1 12 45 40 1
2	書くこと	62.7	60.5	104	6 21 33 36 4
3	読むこと	67.2	60.0	112	2 12 35 36 15

国語では、学力偏差値55以上の段階4以上の割合が全体の46%を占めた。特に「読むこと」の領域では全国比で12%高くなっている。

数学では、学力偏差値55以上の段階4以上の割合が全体の46%を占めた。特に「データの活用」の領域では全国比で10%高くなっている。

また、国語、数学のいずれの教科でも学力偏差値44以下の割合が全体の約2割程度を占めている。



大領域別集計

部	内容	正答率	全国正答率	全国正答率との比較	3 or 5 段階分布出現率
1	話すこと・聞くこと	75.9	69.3	110	4 11 25 29 31
2	書くこと	65.0	60.8	104	9 14 41 29 8
3	読むこと	44.4	41.5	107	5 15 51 18 10

国語では、学力偏差値45以上54以下の段階3の割合が全体の44%を占めており、全体の約半数が段階3であった。「話すこと・聞くこと」の領域では全国比で10%高くなっている。

数学では、学力偏差値65以上の段階5の割合が全体の15%を占めた。特に「図形」の領域では、全国比で13%高くなっている。

英語では、学力偏差値65の段階5が全体の23%、学力偏差値55の段階4以上と合わせると全体の59%を占めており有意に高かった。特に、「書くこと」の領域では、全国比で21%も高くなっている。



大領域別集計

部	内容	正答率	全国正答率	全国正答率との比較	3 or 5 段階分布出現率
1	話すこと・聞くこと	67.1	64.3	104	3 11 33 45 9
2	書くこと	60.6	57.7	105	5 17 32 38 9
3	読むこと	50.5	46.4	109	5 12 54 28 3

国語では、学力偏差値55以上64以下の段階4の割合が38%で、段階5と合わせると全体の45%となり、有意に高かった。

数学では、学力偏差値55以上64以下の段階4の割合が36%で、段階5と合わせると全体の51%となり、有意に高かった。特に「数と式」「関数」の領域が全国比で約15%高くなっている。

英語では、学力偏差値65以上の段階5の割合が全体の23%、学力偏差値55以上の段階4と合わせると全体の54%を占めており有意に高かった。特に「書くこと」の領域では、全国比で23%「聞くこと」の領域では、全国比で16%高くなっている。

第3学年 大領域別集計推移



国語の「話すこと・聞くこと」「書くこと」の領域では、全国正答率を上回っているが、経年で比較すると下降傾向となっている。一方「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質」については、昨年度より正答率は低くなっているが、経年の変化としては上昇傾向となっている。

数学の「数と式」「図形」「関数」では昨年度より正答率が下がった、または同程度であったものの、経年の変化としては上昇傾向となっている。「関数」については、一昨年度までの結果を受け、各校での授業改善を重点的に行った結果、昨年度と今年度の正答率の全国正答率との差が有意に広がってきている。

英語の「聞くこと」「話すこと」「書くこと」の領域では昨年度より下がってはいるが、経年の変化としては、ほぼ同様の推移となっている。一方、「読むこと」の領域では昨年度から約7%下がっており、経年の変化としても下降傾向となっている。全体をとって全国正答率の推移と同じような傾向を示すが、全ての領域において全国正答率より高くなっている。